

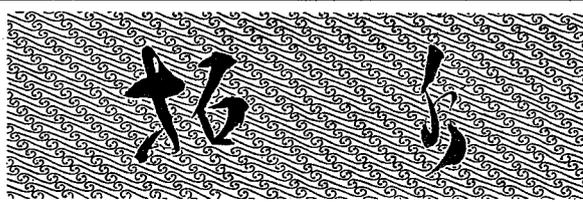
豊かで充実した老後を

漁業者年金

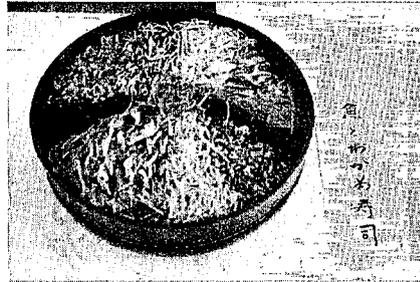
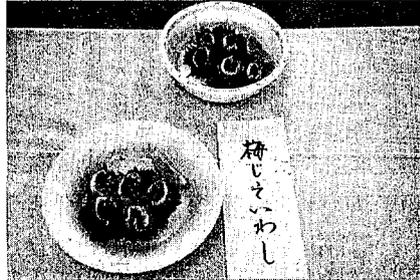
ひとりば万人のために、万人はひとりのために

10月号 No. 384
一部 10円

発行所 兵庫県漁業協同組合連合会
(財) 兵庫県水産振興基金
神戸市兵庫区中之島 2-2-1
TEL 681-6954~7
発行人 兵庫県漁業協同組合連合会



去る九月二十二日、淡路水産センターに於て、淡路地区漁協婦人部連合会主催による「魚を食べましよう」アイデア料理コンクールが開催されました。このコンクールは、身近で安い魚も工夫を



安い魚をおいしく... アイデア料理コンクール開催

とつておいしく食べられることを、広く消費者にPRすることを目的として、毎年開かれているもので、今回で三回目を数え、十四婦人部から二十七名の応募がありました。応募作品の中には、

イワン、太刀魚、アジ、カマジャコ、エソ、ワカメ等を使った揚げ物風やあんかけ風のものや、すり身を使ったケーキ等があり、様々な工夫を凝らした作品が出品されました。審査には、水産関係者や保健所、改良普及所などから十名の審査員があたり、素材の選び方、味、盛り付け、アイデア、普及性など、一つ一つ細かく審査され、この審査によって選出された上位十名のうちから、第二次審査で、各賞に選出された作品は次の通りです。

最優秀賞 「梅じそわし」 淡路漁協婦人部
優秀賞 「魚とわかめ寿司」 福長漁協婦人部

佳作 「太刀魚の野菜巻き天ぷら」 淡路町漁協婦人部
「サバの和風ハンバーグ」 浅野浦漁協婦人部
「エソの春巻き風」 南淡漁協婦人部
審査員特別賞 「白身魚のみそ風リングケーキ」 五色町漁協婦人部
「アナゴの煮こり」 室津浦漁協婦人部

尚、婦人部では、魚食普及活動の一つとして、過去三年間に出品された六十四点のアイデア料理のパンフレットを作成し、一般消費者に配布しようとして検討中です。

全県地域沿構指定 漁場環境調査船着工に 船名「拓水」に決まる

設の整備充実を進める 品質向上と製品の安定はもとより、内海地区の各種漁業の振興を図るうえで、漁場環境の適確な把握と情報の迅速化に関する体制の整備充実が極めて重要であることから、県漁連がかねてより計画を進めていた漁場環境調査船建造が、十月十日着工する。完成は十二月二十五日の予定で、特長あるのりづくりを目指して兵庫のり関係者を始め、のり関係

のり養殖業における品質向上と製品の安定はもとより、内海地区の各種漁業の振興を図るうえで、漁場環境の適確な把握と情報の迅速化に関する体制の整備充実が極めて重要であることから、県漁連がかねてより計画を進めていた漁場環境調査船建造が、十月十日着工する。完成は十二月二十五日の予定で、特長あるのりづくりを目指して兵庫のり関係者を始め、のり関係

計器のほか環境調査に必要な機能を装備している。 船名は県漁連職員による公募の中から、第三次審査で「拓水」に決定された。 「拓水」はヤマハ関西西園大草製造所で建造、四・九トン、漁船法九〇馬力(VDドライブシステム採用)、航続三五〇海里、最大搭載人員十二名、ロケット、レーザー、無線電話等航海

昭和63年度兵庫県漁協婦人部 ブロック講習会が終了

今年度は組織活動の活発な成果の結果、自ら発表会を行ったグループもあり、活動の自主性が随所に見られた講習年度一ターとなり。また、年々厳しさを増す漁業環境の中で、漁協婦人部に対する期待は次第に高まりつつありますが、婦人部員一人一人の資質の向上と協同意識の啓発を図る必要がある。このため、講習内容は以下の通りです。

- 講演「明るい漁家生活について」
- 講演「救急看護について」
- 講演「愛と生き方」
- 手芸教室(但馬地区)
- 講演「海難防止は家庭から」
- リズム体操

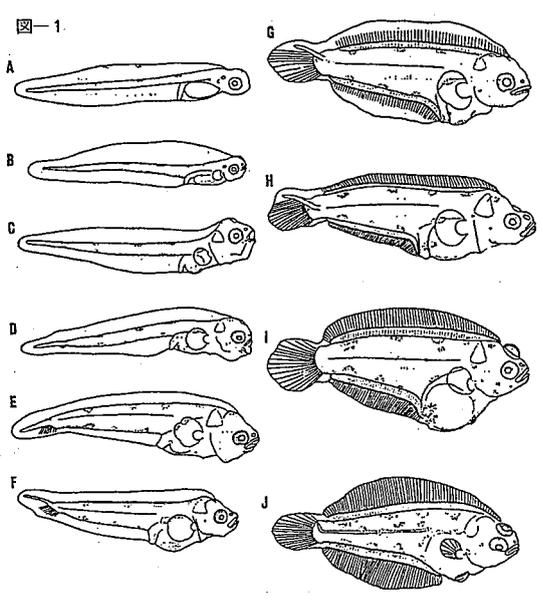


漁業士 北海道を訪れる

去る十月六日から八日にわたり県下漁業士五名が昨年度に引き続き、北海道の水産産業を視察し、現地(札幌市・函館市)視察研修会が実施されました。これは、六十二年度に地域漁業の中核的な担い手としての青年漁業士が九名、漁業青年育成に指導的役割を果す指導漁業士が二名、



政として強力に推進している「明日を担うこころ豊かな人づくり」を目的として実施されたものです。視察先は北海道漁業指導漁業協同組合連合会、札幌市中央卸売市場、日本化学飼料㈱を訪れ、北海道の漁業実態、市場内見学、



A-J. Prelarvae, postlarvae and juveniles of *Linnda yokohamae*. A, BL 3.05 mm; B, BL 3.20 mm; C, BL 4.60 mm; D, BL 5.50 mm; E, BL 6.30 mm; F, BL 7.45 mm; G, BL 7.60 mm; H, BL 7.65 mm; I, BL 8.20 mm; J, BL 9.90 mm

水試ノート

マコガレイについて

小型機船底びき網漁業の重要な対象魚種であるヒラメ・カレイ類について、現在大阪湾西部地区に当該魚種マコガレイの生態や

の大型増殖場を造成する計画が進められていますが、そこで当水試の増殖を計るために、どのような構造物が良いのか、またどのよう

よりやや短い。底生移行はステージ(H, I)から始まる。浮遊期はケイ藻類、貝類幼生およびコペポダ幼生を多く摂食する。(図1)

着底時体長は9mm前後、着底場所は水深10~15mであるが、その後波打ち際に移動する。全長1~2cmの稚魚は主にコペポダ、二ダ、三ダ、三コエビ、ヨコエビ類、三六cmのもの、六cmのものはヨコエビ類やクマ類、六~一〇cmのものは甲殻類や多毛類を主に摂食する。

成熟 雌は満二才で約

	雄		雌	
	全長cm	体重g	全長cm	体重g
1才	11.4	16.6	11.0	14.9
2才	18.6	81.2	20.0	102.7
3才	23.2	166.2	25.9	234.0
4才	26.3	245.3	29.7	364.1
5才	28.2	308.2	32.3	471.9
6才	29.5	354.3	33.9	553.3

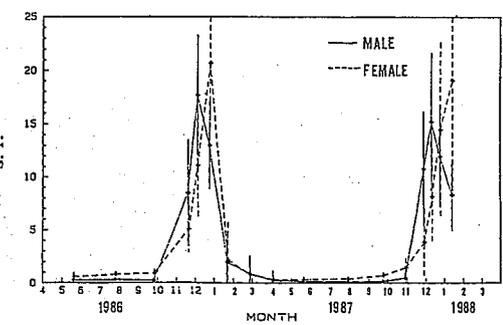


図-4 MAKOGAREI AKASHI 1986-1988

産卵期 明石海峡周辺では十二月末~一月末下旬、産卵盛期は一月上旬中旬。雄が先に成熟する。(図4)

産卵数 一個体あたりの産卵数は二才魚約一〇万粒、四才魚約五〇万粒、六才魚約一〇〇万粒。

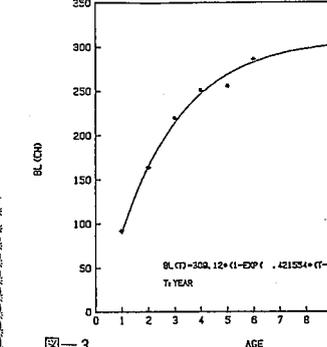


図-3 Bertalanffy's growth curve (Akashi female)

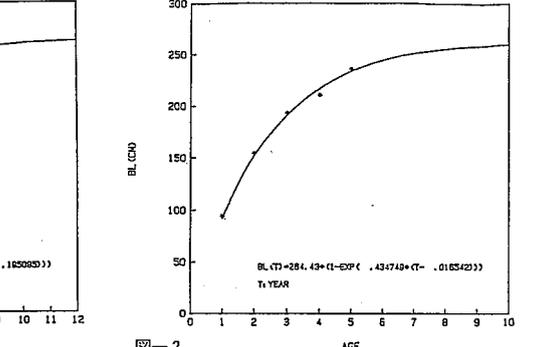


図-2 Bertalanffy's growth curve (Akashi male)

兵庫JCC通信

今、農協・生協では

「輝かしいのちの未来」 食と緑の博覧会開幕

多紀郡丹南町の四季の森公園で「ひょうご88・食と緑の博覧会」が開催されました。この博覧会は、今年四月から北摂・丹波の一市一町を舞台に繰り広げられていた祭典「ホロニア88」の後半を盛り上げるイベント。

農協協同組合 「輝かしいのちの未来」 食と緑の博覧会開幕

「食と緑・輝かしい生命(いのち)の未来」をメインテーマに、農林水産業の重要性と役割を見直し、将来の可能性を探るとともに、都市と農村の交流、人と自然との調和を図っていくというものです。

会場の四季の森公園は、二十ヘクタールの広さ。テーマ館、緑のテクノロジー館、バザー

海区漁業調整委員会

九月二十七日 九月二十九日

第三四六回但馬海区漁業調整委員会を但馬水産事務所会議室で開催

一、さより船びき網漁業の許認可取扱方針について(諮問)

審議の結果、原案どおりで差支えない旨各申すことに決定されました。

二、日本海漁業調整委員会連絡協議会について(報告)

九月十二日青森県で開催された連絡協議会の概要について報告がなされ、意見交換が行われました。

三、その他

第十四期海区漁業調整委員会委員の選任に伴い、前年度における委員会等の開催内容、当海区委員規定集等について、事務局より説明がなされました。

生活協同組合 「消費者権利について理解を深める」

九月二十一日午後一時~四時、兵庫県民会館で、消費者保護基本法制定二十周年記念シンポジウムが開催されました。

消費者保護基本法は、消費者の利益の擁護および増進をはかり、国民の消費生活の安定と向上を確保する目的で制定され、今年で二十年目になります。

主催者を代表して、兵庫県生協連合会の高村勲会長があいさつし、続いて来賓の兵庫県生

九月二十九日 兵庫県瀬戸内海海区漁業調整委員会委員協議会を県中央労働センターで開催

一、区画漁業権(魚類養殖業)の一斉更新

ル館、フードピア館、ふるさと味覚博物館などのパビリオンのほか、丹波の街道、ふれあい牧場、ハイテク温室館など見どころがいっぱい

農協からは、緑のテクノロジー館に「うきよ遊とびあ」というコーナーを設け、ゲームを楽しみながら、農業・農協に対する理解を深めてもらおうとしています。

会期は、十一月六日までで、会場では毎日、丹波の秋の味覚などの試食会が催されています。

この後、県立東播磨生活科学センターの藤井昭子氏が、消費者苦情からみる消費者の意識の変遷を説明し、瀬戸生協の藤原恒子理事が、食品添加物を減らしてきた組合員の活動を報告しました。

参加者は、資料に目を通しながら熱心に聴き、消費者の権利についてより理解を深めました。



について 県水産課に提出された区画漁業権の設定要望内容について、詳しい説明を受けた後、慎重な審議が行われた。

二、その他

十月の委員会は、委員研修会とすることとされた。

活文化部の山本義弘次長があいさつしました。基調講演は、講師の正田彬氏(慶応大学教授)が「消費者権利の確立のために」のテーマで行い、「消費者が『おかしな』何とかする必要がある」ということで一致して考える。そうして互いに信頼関係を築くことにより、消費者権利を守るための基盤ができることになると述べました。

